

紫雲寺商工会景況調査結果

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 地区内小規模事業者
イ 対象企業数 15 事業所
ウ 回答企業数 15 事業所 (回答率 100 %)

(2) 調査対象期間

平成27年7月～平成27年12月
(調査時点 平成27年12月1日)

(3) 調査方法

経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	2	13%	2	13%
建設業	3	20%	3	20%
卸・小売業	6	40%	6	40%
サービス業	4	27%	4	27%
合計	15	100%	15	100%

2. 地域内産業全体の景況概要

どの業種も厳しい経済状況が続いている。そのような中、一部の事業所においては売上が増加傾向にある。持続化補助金を活用し、販促活動をしている事業所は成果が出ている。商業関係の業種では、高齢化により廃業する事業所が目立ち始めてきた。

【後継者の状況】

「後継者なし」の回答が多かったが、商業関係では数件を除き「後継者なし」の回答だった。今後廃業が増加する可能性が大きい。

後継者 あり	4事業所	36.4%
後継者 なし	11事業所	73.3%

【売上高】

いずれも「減少」が若干多い調査結果となった。当地区においては景気が今一良くならないこと、複数の店舗では高齢のお客様が多いため、亡くなることによりお客様の死亡→売上減少 となっている事業所が見受けられた。年金受給日に売上が集中するをいう回答もあった。

前年同期比

増加	不変	減少
5	3	7

前期比

増加	不変	減少
4	4	7

今後の見通し

増加	不変	減少
2	6	7

【採算】

小売業を中心に「悪化」と答える事業所が多かった。全体的には経費を削ることにより採算を確保している事業所があったが、今後については厳しい見方をしている事業所が多かった。

前年同期比

好転	不変	悪化
5	4	6

前期比

好転	不変	悪化
4	5	6

今後の見通し

好転	不変	悪化
2	7	6

【仕入単価】

消費税増税の影響もあり、前年同期比で仕入単価が上昇したと回答する事業所が過半数であった。今後も東京オリンピック開催へ向け特に建設関係の需要増が想定され、それに伴い仕入単価も上昇していく可能性が高い。

前年同期比

上昇	不変	低下
6	9	0

前期比

上昇	不変	低下
5	10	0

今後の見通し

上昇	不変	低下
5	9	1

【販売（客）単価】

「上昇」と答えた事業所は数件だった。当地域の消費者の財布の紐が固い様子が伺えた。保険料等増加による年金収入の減少等が影響しているものと思われる。

前年同期比

上昇	不変	低下
1	8	6

前期比

上昇	不変	低下
2	8	5

今後の見通し

上昇	不変	低下
1	9	5

【資金繰り】

「不変」と回答した事業所が多かった。厳しいながらも極力借入をせず、資金を回している様子が伺えた。

前年同期比

好転	不変	悪化
3	5	7

前期比

好転	不変	悪化
3	8	4

今後の見通し

好転	不変	悪化
2	9	4

【雇用動向】

調査対象の半数程度は、家族のみの経営であり今後雇用を増加させる事業所はなかった。

前年同期比

増加	不変	減少
0	4	3

前期比

増加	不変	減少
0	5	2

今後の見通し

増加	不変	減少
0	4	3

【景況判断】

「不変」「悪化」が多く、今後の見通しも同様であった。新発田市を中心とした地域の人口の減少により、今後も厳しい状況は続くものと思われる。

前年同期比

好転	不変	悪化
3	6	6

前期比

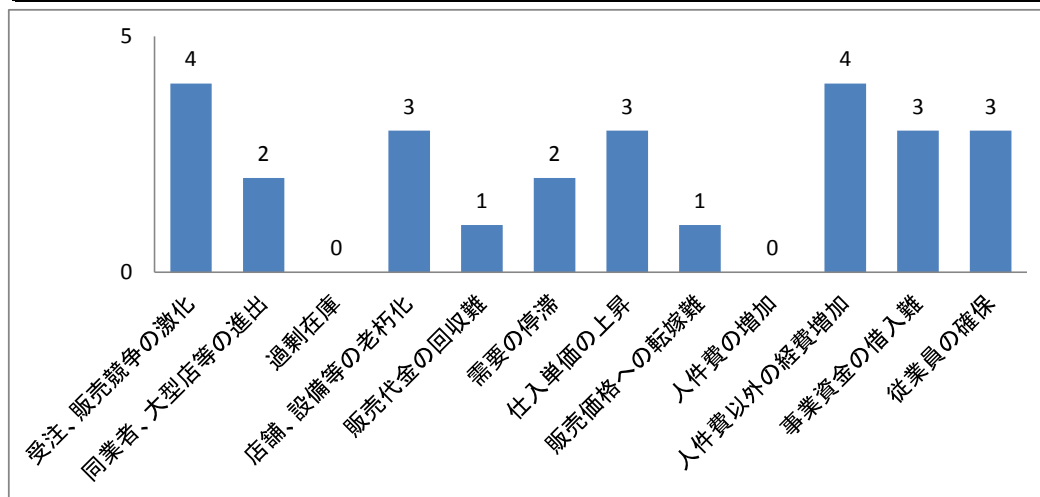
好転	不変	悪化
1	9	5

今後の見通し

好転	不変	悪化
3	6	6

【経営上の問題点】

経営上の問題として、「税負担の増加」を上げる事業所が多かった。近年、所得税の扶養控除の減少、社会保険料関係の増加等により事業者の金額的負担は増えるとともに、今後は、「消費税の軽減税率導入」等により事務負担も大幅に増えるものと思われる。その他には、受注競争の激化、経費の増大、設備の老朽化が上げられた



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

売上は客単価が減少しており、新規取引先を開拓する必要がある。仕入については価格変動が激しく、価格が上がっても商品になかなか転嫁できない。高齢の従業員が多いが求人を出しても若年者が集まらない。

しかし、今後の業務の効率化により採算を確保できる状況である。

(2) 建設業

公共工事が落ち込んでいる中、収益をどのように確保していくかが課題である。従業員も高齢化してきたおり、若い人材の確保が重要である。また、資材のコストも上がっており、採算の確保が難しくなっている。

(3) 卸・小売業

小売業、最寄品関係は町外の大型スーパー、量販店へ流出が続いており、この傾向は歯止めが利かない。経営者も高齢の方が多く後継者のいない事業所も多い。独自色を出している一部の店舗では、売上が増加しており今後も明るい見通しであるが、全体としては厳しい状況が続いている。

(4) サービス業

業種による違いはあるが、昨今のガソリン・石油価格の低下により、特に運輸業では好転が見込まれるが、景気動向の影響を受けやすいことから予断を許さない。自動車修理等は安定している事業所が多い。

(様式③)

No.	
-----	--

景況調査ヒアリングシート（平成27年度）

調査対象期間 平成27年7月～12月
(調査時点 平成27年12月1日)

商 工 会 名		商工会	担当職員名
企業 の 概 要	業 種	1：製造 2：建設 3：卸・小売業 4：サービス他	
	従業員数	1：0人 2：1人～2人 3：3人～5人 4：6人～20人 5：20人超	
	企業区分	1：小規模事業者 2：小規模事業者以外	
	後継者の有無	1：有 2：無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(H26年7～12月) と比較して	前期(H27年1月～6月) と比較して	今期(H27年7～12月)と 比較した来期(H28年1～6月) の見通し
売 上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕 入 単 価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資 金 繰 り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇 用 動 向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景 況 判 断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化
- ②同業者、大型店等の進出
- ③過剰在庫
- ④店舗、設備等の老朽化
- ⑤販売代金の回収難
- ⑥需要の停滞
- ⑦仕入単価の上昇
- ⑧販売価格への転嫁難
- ⑨人件費の増加
- ⑩人件費以外の経費増加
- ⑪事業資金の借入難
- ⑫従業員の確保
- ⑬販売先からの値下げ要請
- ⑭税負担の増加
- ⑮その他 ()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)

--